

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) タテホ化学工業株式会社

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

当社のホームページ (<http://www.tateho.co.jp>) で公開しています。

環境方針

■基本理念

タテホ化学工業グループは、環境を経営の最重要課題のひとつと位置付け、継続的改善により、事業活動のあらゆる面で負となる環境影響の低減に取り組み、地球環境に配慮した製品の提供に努め、環境保全及び汚染の予防を推進し、人と自然が調和できる社会の実現に貢献する。

■基本方針

当グループは、マグネシウム化合物及び関連製品の研究開発・製造・販売等の一貫した事業活動において、製品の製造から廃棄までの環境負荷が最小限になるように、環境汚染の予防、地球温暖化対策（気候変動の緩和策と適応策）、資源の有効利用、及び化学物質による人や環境への影響を減らすことに取り組む。また、社員一人ひとりの活動が地域及び地球規模の環境問題と深くかかわりがあることを認識し、業務に融合した環境活動を社内外で実施する。

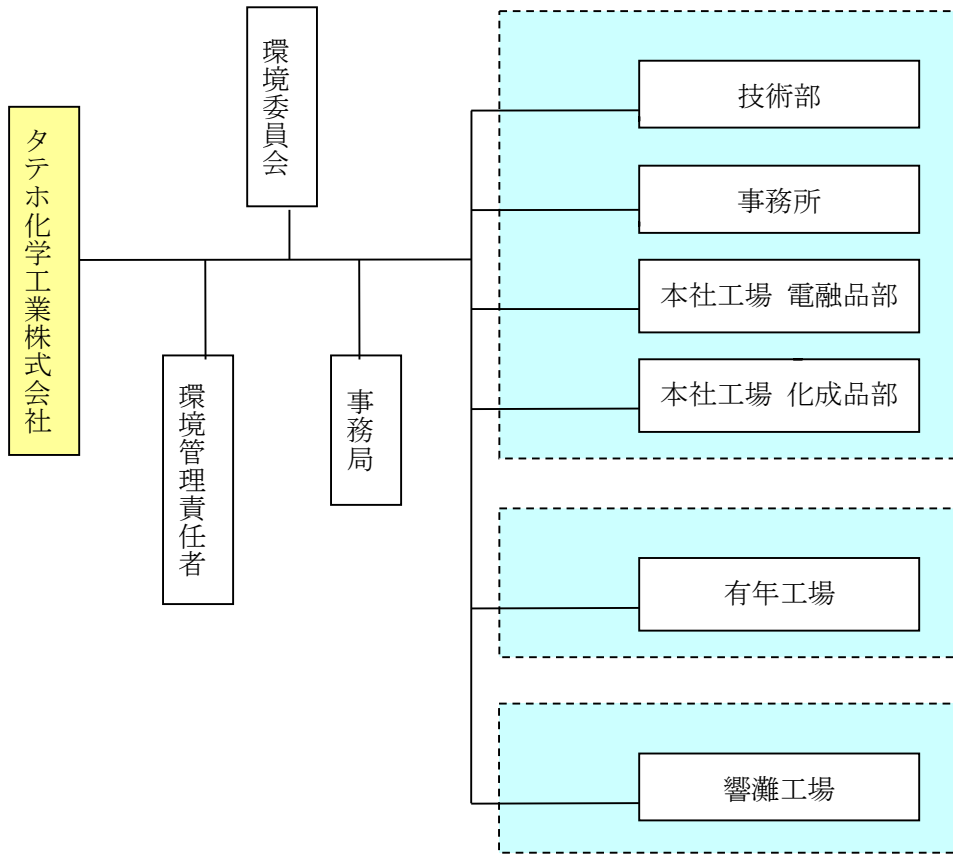
1. 環境に関する情報開示に努め、ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを通して環境、安全、品質に考慮した製品を開発及び提供することで、より良い地球環境の実現を目指す。
2. 環境方針と実施計画及び成果を社員一人ひとりに周知し、それぞれの立場で環境問題を考え「環境クオリティ」の向上に努める。また一般にも広く公開する。
3. 地域社会、その他関連団体等の活動・行事への参加・支援を通して社会貢献の輪を広げる。
4. 環境関連の法規制並びに協定書の順守、更には自主的な取り組みにより、環境負荷の継続的改善に努める。
5. 環境方針達成のため、目的・目標を設定して実行するとともに定期的な見直しを行う。

2016年10月1日



1-2 環境保全活動に関する組織体制

環境マネジメントシステムの体制



2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画
①より良い地球環境に貢献できる製品の開発・提供 ②独自の EMS 企業の認定活動を推進する。	①環境へ貢献する製品開発を重要開発テーマとして開発を実施した。 ②グリーン調達指針の見直しと取引先への環境情報の伝達、調査を行い、独自の EMS 企業の認定活動を推進した。	①「資源の有効活用」、「地球温暖化防止」に関連する新技術の開発を重要開発テーマとして開発を継続する。 ②独自の EMS 企業の認定活動の継続。
①積極的に情報を公開し、ステークホルダーとのコミュニケーションを図る	①ホームページを活用し、定期的に情報更新等を積極的に行い、情報公開を行った。 ②社内各部門にて特色ある環境ニュースを社内発行した(5月、8月、11月、2月)	①HPを活用した情報公開の継続。 ②環境ニュース発刊の継続。 ③環境社会報告書の発行。 ④循環型企業としての社内展示の検討実施。
①地域社会との共生・協働を図る	①地域貢献活動として、作用町里山活動、赤穂クリーンアップ大作戦、海浜公園及び工場周辺の清掃活動を実施した。 ②小学生を対象に 2/14:有年小学校、3/17:城西小学校へ出前授業を実施した。 ③6月の環境月間活動に全社員を対象に「環境行動宣言」を実施し、社内環境教育、廃棄物処分場の視察等を実施した。 ④環境意識向上を図るため、環境ポスターの作成と掲示を実施した。(5月、7月、10月、1月)	①構外清掃活動の実施。 ②地域貢献活動への参画を継続。 ④定着活動の継続として、「エコ活動(エコキャップ、切手収集等)」を継続する。 ⑤環境保全活動への新規参画。
①環境活動の業務への融合	①ISO14001:2015 年度版への移行として、現行版との比較を実施し、移行準備を促進した。	①ISO14001:2015 年度版へ移行する。
①温室効果ガス(CO2)排出量の原単位を削減 ②電気・燃料ガスの原単位を削減 ③緊急事態訓練の実施及び手順見直し	①CO2 排出量原単位管理を実施、環境委員会で月次達成率の確認し、達成率の改善指導を実施した。 ②電気・燃料ガス原単位管理を実施、環境委員会で月次達成率の確認し、達成率の改善指導を実施した。 ④緊急事態訓練実施として、塩酸漏洩対応訓練、排水緊急時訓練、ガス漏洩対応訓練、地震防災訓練、消火避難訓練を実施し、手順等の見直しを実施した。 ⑤夜間・休日を想定した訓練として、9月に夜間の緊急対応訓練を実施した。	①低炭素化推進、CO2 排出量の算出(毎月)を実施。 ②エネルギーの再利用展開方法の検討を実施。 ③ウォーム&クールビズ展開方法の検討を実施。 ④緊急事態訓練の実施及び手順の見直しを実施。 ⑤定着活動を継続する。
①環境懸念物質を的確に把握し、適切な情報提供を実施する。 ②化学物質リスクアセスメントを実施し、災害を未然に防止する。	①REACHの高懸念物質(SVHC)等リストの追加情報確認と調査を実施し、原材料に含まれる環境負荷物質含有量の管理を実施した。 ②顧客からの問い合わせに対し、情報提供を実施した。 ②社内で使用するリスクアセスメント対象の化学物質とその取り扱い作業内容について調査を実施した。	①環境懸念物質の把握と顧客への情報提供は継続して実施。
①コンプライアンスの徹底 ②5S活動の活性化	①大気、水質、騒音設備の適切な運用管理を行い、法違反ゼロ。 ②フロン排出抑制法に基づく、第一種特定製品の管理徹底を行った。 ③環境パトロール、内部監査を実施し、環境保全活動の維持・継続させた。 ④環境マネジメントシステムの見直し、環境マニュアルの改訂を実施した。 ④行動指針に従い、5S活動を継続実施した。	①大気、水質、騒音設備の適切な運用管理を実施し、法規制等の逸脱ゼロ。 ②自主的な管理による環境測定・監視を実施し、特異値発生時の完全対応。 ③環境パトロール、内部監査の実施。
①ゼロエミッションを継続する ②資源を有効に活用する	①産業廃棄物再資源化率 99.9%でゼロエミッションを継続した	①水資源の利用量低減。 ②原材料の利用量低減。 ④自家用車通勤低減方法の検討と実施。